

専門プログラム拡充／実施早め 回数増加



製造の現場を学ぶ学生ら＝揖斐郡大野町相羽、岐阜プラスチック工業テクセル事業所



インターンシップでグループディスカッションする学生ら＝岐阜市若宮町、トーカイ本社

26年卒採用へ本格化

県内大手、人材確保へ注力

岐阜プラスチック工業は今年、理系向けのインターンで商品開発を学ぶ従来の5日間コースに加え、化学系人材を対象に2日間の素

県内の大手企業を中心に、2026年春卒業の学生を対象とした夏季インターンシップ(就業体験)が本格化している。新卒採用は学生優位の「売り手市場」が続ぎ、企業にとってインターンは学生に関心を持ってもらう重要な場。企業はプログラムの拡充や実施回数を増やすなど工夫を凝らし、採用活動での人材確保につなげる。

(松浦健司)

インターン重視加速

イビデンは短日のキャリア形成支援プログラム「オープンカンパニー」の開始時期について、昨年の8月中旬から今年は6月末に早めた。担当者は「二つの新工場建設や技術開発を進める上で、優秀な学生を確保する必要がある。早くから学生と接点を持ち、信頼関係を構築する目的で早期化した」と説明する。

岐阜信用金庫は今年、実施回数を1・3倍ほど増やしたほか、岐阜、愛知県の出身者のUターンを狙って新たに関東、関西でも開催している。「マイナビ」など就活サイトの活用に加

えて、企業が登録者に直接スカウトできる「ダイレクトリクルーティング」を使い、両県の出身者とみられる学生に参加を呼びかける。トーカイは5日間のコースに、営業マンの商談に2日間同行する体験型プログラムを取り入れる。営業や医療介護の現場を見てもらい、入社後の仕事をイメージできる内容にした。担当者は「仕事とミスマッチが起きないようにしたい」と語る。